

工コ小野上処分場概要

澁川地区広域市町村圏振興整備組合

《渋川地区広域圏清掃センターエコ小野上処分場の概要》

エコ小野上終処分場は、従来からあるオープン型最終処分場とは違い、屋根や壁を設置する被覆型（クローズド型）最終処分場となります。

浸出水は水処理をして、貯留施設内の散水に循環再利用し、河川への放流を行わない環境に配慮した施設となっています。

1 基本的事項

- (1) 建設場所 渋川市小野子字四方木3665番地
- (2) 設計・施工管理 (株)日本環境工学設計事務所
- (3) 施 工 瑞穂・北部・石関(仮称)渋川地区広域圏一般廃棄物最終処分場建設工事特定建設工事共同企業体
- (4) 工 期 平成24年11月30日～平成26年12月22日
- (5) 建設費 3,237,421,000円(消費税含む)
- (6) 施設規模 敷地面積 22,080㎡
埋立容量 70,000㎡
- (7) 埋立物 渋川地区広域圏清掃センターからの焼却灰、飛灰、不燃物残渣及び覆土
- (8) 埋立期間 環境省が定める「廃棄物最終処分場の性能に関する指針」に基づき15年

2 施設概要

(1) 被覆施設

- 構 造 鉄骨造平屋建て
- 基礎構造 地盤改良併用直接基礎
- 外 壁 断熱複合パネル横張り
- 屋 根 ガルバリウム鋼板折板葺き
- 延べ面積 7,523.58㎡(70.15m×107.25m)
- 最高高さ 14.45m(地盤面から底面まで15m)

(2) 貯留施設

- ア 貯留構造物の方式
補強土壁工法
- イ 遮水設備
表面遮水工(2重)遮水シート工法

遮水工バックアップ機能（漏水検知システム及び自己修復材）

（３）浸出水処理施設

- ア 処理水 循環再利用（埋立地の散水利用）して河川に放流を行わない「無放流式」
- イ 処理能力 20 m³/日
- ウ 設 備 カルシウム除去設備→生物処理設備→凝集膜ろ過設備→活性炭吸着設備
循環再利用に伴い、浸出水中の塩分を除去する必要があるため、脱塩処理設備を付加した処理施設

（４）管理棟

- ア 管理用事務室、研修室（50席）
- イ 浸出水処理プラント

（５）参考図

下図は、エコ小野上処分場の断面です。

